

ほ場整備地の未来を託す大規模担い手の育成

目的

県が進めるほ場整備地において、キャベツなどの高収益作物を生産する農業法人等の参画を促すとともに、栽培上懸念される稲作との両立等技術的課題等を解決することにより、担い手への集約、販売額向上を進め、新たな園芸産地の育成と地域の活性化を図る。

課題

- 【人材面】
 - ・高収益作物を生産する担い手の不在
 - ・園芸品目の働き手の確保
- 【施設面】
 - ・園芸機械化体系の遅れ
 - ・野菜生産に関する農業施設の不在
- 【技術面】
 - ・野菜作付に伴う残渣及び肥料の次作への影響
 - ・適切な排水対策

課題解決に向けて

【人材面】

- ・秋冬野菜作付に対する芳崎地区土地改良区及び水稻担い手の理解の促進
- ・土地利用型園芸品目生産のノウハウを持つ意欲ある法人の参入促進
- ・農福連携や地域雇用による園芸品目働き手の確保

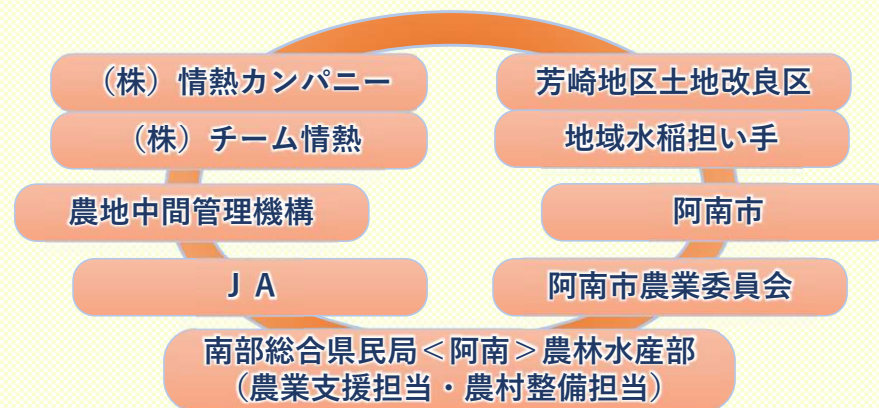
【施設面】

- ・園芸品目に適した農地の見える化
- ・期間借地による秋冬期の農地流動化、規模拡大に向けた周年借地の検討
- ・野菜生産の拠点となる農業施設の確保

【技術面】

- ・野菜残渣処理体系の確立による水稻・野菜輪作体系の確立
- ・ほ場の土地条件等に応じた品目・品種・作型の確立
- ・土地利用型園芸品目におけるスマート農業体系の実装

【推進体制】



目指すべき姿

- ・本県初の県営事業である芳崎地区ほ場整備地において、意欲ある農業生産法人が参画・定着し、ほ場整備地における園芸品目産地化モデル（芳崎モデル）が確立されている。
- ・他のほ場整備地でも芳崎モデルの横展開が進み、地域の販売額増加や雇用促進につながっている。

ほ場整備を契機とした安定的な担い手の確保と併せて、園芸品目の産地化や地域雇用の創出が図られ、地域が活性化

(3年後の成果目標)

芳崎地区ほ場整備地における野菜作付面積 0.3ヘクタール (R5) → 3ヘクタール (R8)

